# 06 高齢・長寿

## 現状と課題 - 横浜を取り巻く状況と課題 -

**〇少子高齢化の更なる進展**

・横浜市も将来的には、総人口が減少していく中、高齢者人口は今後も増加し、2020（令和２）年の95万人から2040（令和22）年には120万人に増加し、市内人口の約３人に１人が高齢者になると予想されています。
また平均寿命は男性82.3歳、女性88.1歳と延伸しています。

・高齢者人口の増加に伴い、要支援・要介護認定者数も2020 （令和２）年から2040（令和22）年の20年間で約1.5倍増加し、2040 （令和22）年には25.1万人となる見込みです。同様に、認知症高齢者も増加し、2040 （令和22）年には高齢者の6.7人に１人が認知症となる見込みです。

・2040 （令和22）年には市内の約３分の１が高齢夫婦世帯または高齢単独世帯になると見込まれています。また、約９割の方が、ご自身の病気や介護、亡くなった時など、将来に備えておきたいと考えています。

・高まる医療・介護需要に対して、少子化の進展により、介護サービスや地域を支える担い手不足が深刻化する懸念があります。

**〇安心して生活できる環境づくり**

・特別養護老人ホーム入所までの待機期間は７か月となっており、入所希望者の状況を踏まえ、早期に入所できる環境整備が課題です。

・高齢者が安心して生活できるよう福祉サービスの提供体制の確保、地域づくりが重要です。

## 目指す姿 - ４年後、そして、更に将来にわたって目指すべき姿 -

・高齢者の活躍・社会参画の機会が充実し、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、つながり・支えあう地域づくりを進めます。

・見守りの取組や地域での支え合いを推進し、住み慣れた地域で自らの意思で自分らしく暮らすことができています。

・新たな担い手の参入促進、定着支援等を通じた人材確保や、DXを通じた業務改善などの働き方改革により、介護需要に対するサービスを持続的に提供することができています。

・必要な施設・住まいの整備や、相談体制の充実を通じて、日常生活に支援や手助けが必要になっても、一人ひとりの状況に応じたサービスの選択が可能となっています。

## 政策指標 -市民の皆様の横浜市での暮らしの意識を表す指標-

高齢者にとって暮らしやすいまちだと思いますか

**47.1%**

高齢者に対する支援の充実に向けた取組に関連する主な個別分野別計画等

よこはまポジティブエイジング計画

よこはま保健医療プラン2024

【関連するSDGsの取組】

# 14 高齢者支援

## 方向性

高齢期を迎えた人がいつまでも元気で、自分らしくいきいきと暮らし続けられるよう、地域との協働を基盤として買い物などの日常的な生活支援や、ボランティア、就労的活動などの社会参加を支えると共に、データ等を活用して早期からの予防的な支援を行うなど、健康づくり・介護予防に取り組みます。

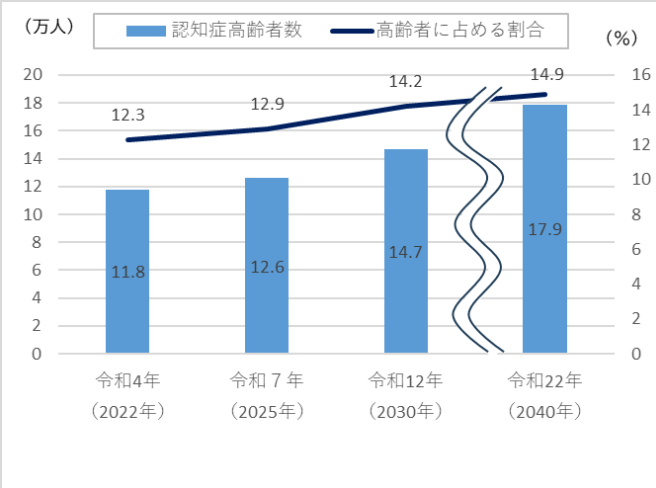
また、医療や介護などの支援が必要になった際に、一人ひとりの状況に応じた適切な支援を提供できるよう、在宅生活を支える医療、介護、保健・福祉の連携・充実を図ると共に、必要に応じて住まいや施設等も選択できるよう、取組を推進します。さらに、今後の「いざという時」への不安を解消するための情報提供や、相談体制の整備、認知症に対する理解ある社会づくりなど、安心して暮らし続けられる仕組みづくりを進めます。

## 指標

| | 現状 | 目標 |
|---|---|---|
| 介護予防・フレイル対策等につながる通いの場等に参加した人数 ※【健康福祉局】 | 102,463人（R6時点） | 増加 102,463人以上 |
| 医療専門職の個別的支援(ハイリスクアプローチ)により、状態が維持・改善した高齢者の割合 ※【健康福祉局】 | 74.3% | 増加 74.3%以上 |
| 今後（老後）の暮らしについて考えたり、誰かと話したことがある人の割合 ※【健康福祉局】 | 調査中 | ー% |
| 特別養護老人ホームに要介護３以上で入所した人の平均待ち月数 ※【健康福祉局】 | ７か月 | ４か月 |

【関連データ等】

●認知症高齢者数と高齢者に占める割合

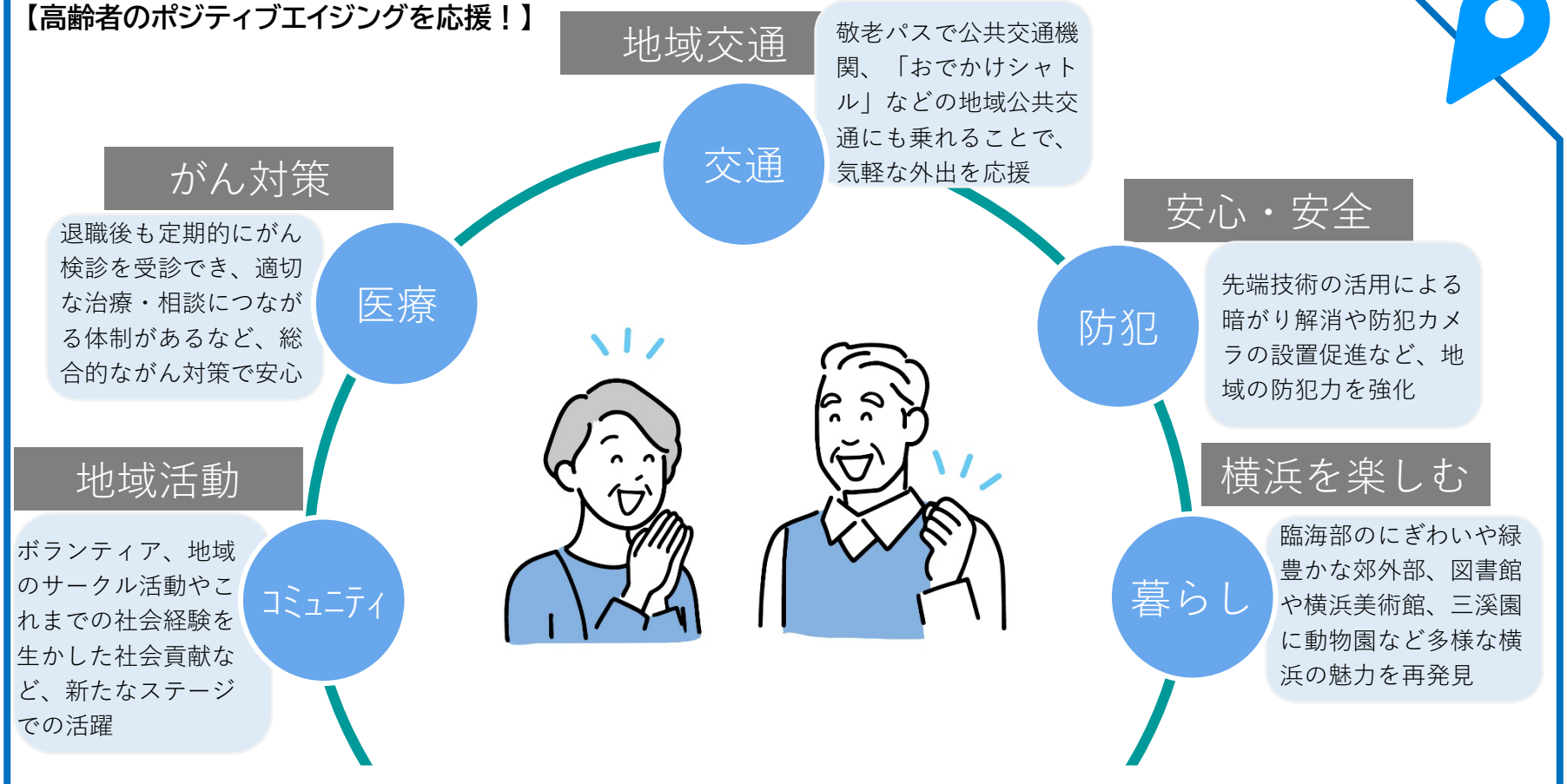



【出典】健康福祉局

●高齢者の通いの場の一例

【出典】健康福祉局

**【高齢者のポジティブエイジングを応援！】**




**「人生100年時代」を迎え、いつまでも安心して、そして、健やかに、アクティブに過ごしていただけるよう、毎日の安心・安全、医療、暮らし・コミュニティ、にぎわい・スポーツ・文化、交通など様々な政策群の取組を生かし、セカンドライフを支援していきます！**

**同時に頼れる人がいない高齢者の方を地域・社会全体で支える仕組みを広げていきます！**